

ベンダー各社の

## 取組みと期待

●伊藤忠テクノソリューションズ

## より強固なパートナーシップを構築して ビジネスや市場ニーズに迅速に対応

伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）とNTTデータとの協業は、NTTデータが創立された1988年以前から始まっている。主にインフラの領域を主としたサーバ製品等の提供を展開し、その後、対象領域をデータベース、ミドルウェア、アプリケーションへと拡大。そして、製品販売とともにコンサルティングや開発、保守・運用といった各SI事業の強化を図り、ビジネスの変化に迅速に対応できる体制を確立。現在は、NTTデータのNTTグループ向け事業部との連携のもと、テレコム業界を中心とした大規模システムの構築、運用に取り組んでいる。また、SI事業の一環として、テレコム業界の将来を予測し、その時のニーズに対応した先端技術製品の開拓にも力を注いでいる。

ここでは、NTTデータとの強力なパートナーシップのもと展開してきた取組みの紹介とともに、CTCのSI事業とテレコム業界を対象とした情報通信システム事業の状況について。そして、今後、注力していく分野と、その取組みの核となる先端技術製品を取り入れたソリューションの一例を紹介する。



伊藤忠テクノソリューションズ(株)  
テレコムシステム第1本部  
テレコム営業第3部  
部長 中谷 寿宏氏

### インフラビジネスを中心に 創立前から各種プロジェクトを支援

創立20周年を迎えたNTTデータとCTCとの協業は、NTTデータの前身である電電公社のデータ通信本部の時代から始まっている。現在、NTTグループ各社に向けた様々なプロジェクトを担当している伊藤忠テクノソリューションズ(株) テレコムシステム第1本部 テレコム営業第3部の中谷寿宏部長は、NTTデータとの取組みについて次のように語っている。

「NTTデータ様の創立20周年誠にありがとうございます。創立以来、各分野の重要なシステム構築に日本最大のシステムインテグレータとして大きく貢献し、わが国のIT業界



伊藤忠テクノソリューションズ(株)  
テレコム営業第3部  
テレコム営業第1課  
課長 新田 和也氏

の発展をリードされてきたことに、心から敬意を表すとともに、お慶び申し上げます。CTCは、NTTデータ様の前身である電電公社のデータ通信本部の頃から、数多くのプロジェクトに参画させていただきました。当初は、主にインフラの領域を中心としたサーバ製品等の提供を行い、現在は、NTTデータ様のNTTグループ向け事業部様との連携を中心に、基盤系システムをはじめとした様々なプロジェクトの推進を支援させていただいています。」

2007年度における主な取組みとして、次のようなものがある。NTTのIP系サービスに関連したシステムとしては、統合的なオペレーションを実施する「アクセス統合ゲートウェイシステム」、IP系サービ

スの業務を円滑に実施するために必要な「設備管理業務システム」、効率的で正確なシステムログ情報を把握する「障害監視システム」、監視・運用業務を統合してIP系サービス網の「統合監視システム」など。また、IP系サービス以外では、専用線サービスの案件管理や見積支援等を行うシステムや、既存の回線や設備の故障発生時における顧客対応を顧客の視点から実現して顧客満足度を向上させることを目的としたシステムなどがある。伊藤忠テクノソリューションズ(株) テレコム営業第3部 テレコム営業第1課の新田和也課長は、NTTデータとのパートナーシップについて次のように語っている。

「NTTデータ様との取組みの中で特に注力していることは、CTCの特長である各分野のトップシェアを誇る標準化製品を組み合わせる提供することと、NTTデータ様のエンジニアリソースに合致した製品を開拓・選択を進めていくことです。以前は、製品の提供を主体でしたが、最近ではシステムの開発・導入、保守・運用といった領域での協業が増えています。今後は、NGN（次世代ネットワーク）や新しいサービス

基盤の構築をはじめ、統合化・仮想化技術をベースとした全体最適化システムの提案、導入など、変化に迅速に対応した製品や技術、ソリューションを提供して、より強固なパートナーシップを築いて参ります。」

### ビジネスや市場ニーズの変化に迅速に対応できる体制を確立

CTCのSI事業は「保守・運用サービス」、「コンサルティング／開発・導入」、「製品販売」の3つで構成されている。これまでのCTCのSI事業は、サーバやデータベースなどの製品販売を主としてきたことから「インフラに強い」と言われてきた。その後、社内のエンジニアリソースの拡充や開発パートナーとの戦略的提携などを推進してSI事業全体の強化を図り、製品販売とともに保守・運用サービス、コンサルティング／開発・導入をバランス良く実行できる体制を確立した。その背景には、ビジネスの変化への迅速な対応がある。

これまでのSI事業は、顧客のビジネスをITによって補完することが目的だったことから、開発、保守、インフラの各領域が個別に動いていても対応できていた。しかし、IT

そのものがビジネスを支えるものとして成長した現在は、何かトラブルが生じた場合にその原因が開発、保守、インフラのどの部分にあるのかをワンストップで顧客に伝え、迅速に対応しなければならない。中でも情報通信システム事業においては、ITが果たす役割が大きいので、開発、保守、インフラの全ての事業をバランス良く行えなければ、ビジネスの変化に迅速に対応できない。このようなSI事業を取り巻く環境を踏まえて、データセンターを中心とした運用・サービス事業の共有化によるITライフサイクルをトータルでサポートできる体制へとシフトした。

CTCのSI事業の中でも、コアビジネスとなっているのが、テレコム業界を主なビジネス領域とした情報通信システム事業である。その組織体制は、3つの本部と顧客のニーズと市場トレンドを踏まえて先端技術製品を開拓・選択して、各本部の取組みを横断的に支援するテレコム事業企画室で構成されている。

CTCの情報通信システム事業は、1995年頃からサーバ製品をはじめとしたインフラ領域を主な事業フィールドにしてきた。その後、データベース、ミドルウェア、アプリケーションへと対象領域を拡大し、そして当初から得意としてきた保守・運用サービスを含めた全ての事業を行える体制へと成長した。特にテレコム業界においては、長年蓄積してきたインターネットのコアとなるネットワーク／サーバ技術をベースに、光アクセス、FMC（固定通信と移

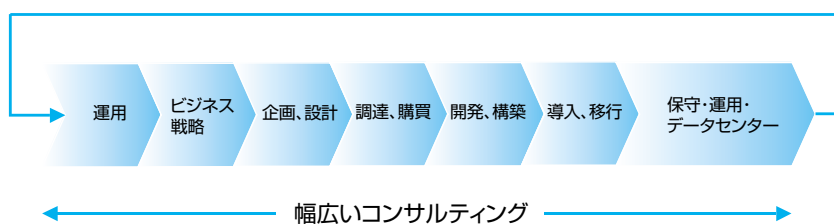


図1 ITライフサイクルの全フェーズをトータルにサポート

動通信の融合)、情報家電、モバイルブロードバンド、オンデマンド、ユビキタスなどの新分野の先進技術を率先して取り入れ、競争力の高いソリューションを提供してきた。

### 先端技術製品を取り入れた競争力の高いソリューションを提供

CTCの情報通信システム事業を取り巻く環境とトレンドについて、伊藤忠テクノソリューションズ(株)テレコム事業企画室の丸田淳一室長は次のように語っている。

「近年のテレコム業界のトレンドとして、NGNや新しいサービス基盤への投資の活発化、大型オープン系システムの需要の成長などがあげられます。これに伴い、お客様のニーズは、ビジネスの変化に対して迅速に対応可能なインフラへの期待が高まっており、ROI(投資対効果)を目的としたシステムの統合化によるTOC(総所有コスト)の削減、内部統制を踏まえたセキュリティの高度化を強く求めています。そして、これらのニーズに呼応して、安全・安心・高品質なNGNのネットワークサービス環境を支える基盤技術、SOA(サービス指向アーキテクチャ)に代表されるシステムの共通基盤化、デジタルオフィス・ソリューションへの展開を含めたセキュリティの高度化、サーバやストレージ、データベースの統合化・仮想化によるシステムの全体最適化、そして、データセンターのエネルギー効率の改善やICTによるCO<sub>2</sub>排出の削減など、グリーンITの実現に向けた



伊藤忠テクノソリューションズ(株)  
テレコム事業企画室  
室長 丸田 淳一氏

製品や技術などが今後成長していくと思います。」

このような状況を踏まえて、CTCでは、現在、次のような製品およびソリューションに注力している。

### 短期間で導入可能な仮想化統合インフラ「VM Pool」

CTCは、仮想化技術の動向に早くから注目し、マルチベンダーの強みを活かして、パートナー企業との連携のもと、様々な仮想化ソリュー

ションを提供してきた。2005年10月には、システムインフラの仮想化を容易に実現するデータベース統合ソリューション「DB Pool」を、翌2006年9月には、アプリケーションサーバ統合ソリューション「MW Pool」を発表した。そして、2007年12月には、Vイムウェアの仮想化ソフトウェア「VMware Infrastructure 3」を中心に、日本ヒューレット・パッカートのブレードサーバ「HP BladeSystem c-Class」、ネットアップのユニファイド・ストレージ「NetApp FAS」シリーズを組み合わせた仮想化統合インフラ「VM Pool」を発表した。

VM Poolは、仮想化技術にブレードサーバ、NAS(ストレージ)を組み合わせた仮想化統合インフラで、システム全体を最適化することを目的としたソリューションである(図2参照)。CTCが厳選した3製品の組み合わせにより、高い統合度

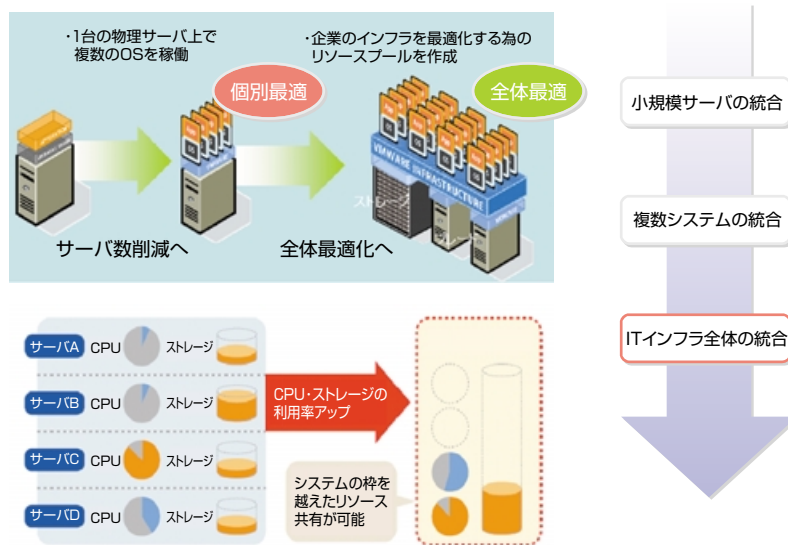


図2 個別最適から全体最適へ



を実現。TCOの削減やROIの向上、運用効率・管理性の向上とともに、仮想化ならではの柔軟性を活かしたビジネスへの迅速な対応を可能にするソリューションである。その特長は次の通り。

◆**短期間での構築・導入が可能**：あらかじめ最適な環境・設定で組み合わせたパッケージソリューションなので短期間での構築・導入が可能。

◆**高い信頼性を実現**：CTC独自の技術検証施設「テクニカルソリューションセンター (TSC)」において事前検証を実施し、高い信頼性を実現。

◆**ベンダーパートナーとの強固なリレーション**：VUEと国内初のGlobal System Integrator契約を締結し、国内における仮想化ソリューションの展開で協業するなど、ベンダーパートナーとの強固なパートナーシップによる最新かつ高品質な仮想化ソリューションの提供が可能。

さらにCTCは、仮想化ビジネスの拡充を図るため、2008年2月には、ITのシステム基盤を短期間で構築する仮想化ソリューションとして、大規模システム向けの「FX Pool」と、高可用性を実現する「NV Pool」の販売を開始した。

「仮想化技術を活用したシステム統合が一般的になる中で、仮想化技術を導入することで生まれた新たな留意点を考慮した設計を行うことが、今後、重要になるでしょう。VM Poolは、仮想化の導入効果を把握するための現状分析（アセスメント）を利用して設計、開発されたソリューションです。」

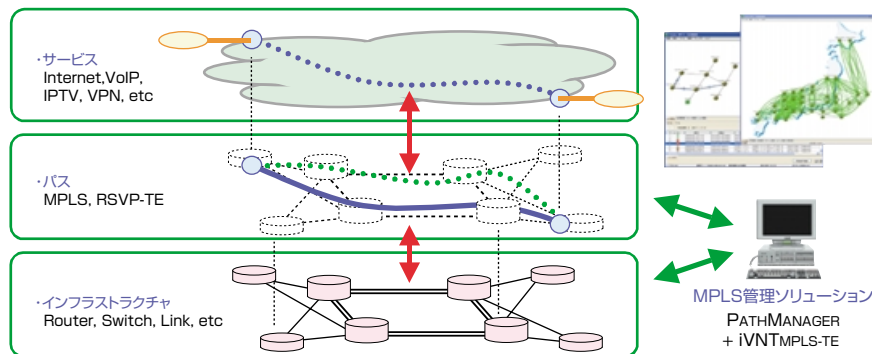


図3 MPLSネットワークの階層構造とMPLS管理ソリューションの位置づけ

(前出、丸田室長)

### 回線設計や保守作業の負荷を削減する「MPLS管理ソリューション」

NGNの基盤技術として期待されているMPLS (Multiprotocol Label Switching) は、IPネットワークにおけるパケット転送の高速化・高信頼性を実現するネットワーク技術である。しかし、回線設計と設定作業が複雑であることから、サービス開始までに長い期間を要し、熟練したエンジニアであっても保守や障害対応が困難であるという課題を抱えていた。このような課題の解決に向けて、CTCは2007年10月にMPLSネットワークの設計・制御・監視・保守を一元化するネットワークマネジメントシステムの開発に向けた製品として、MPLSネットワークの視覚的なパス管理を実現するインテック・ネットワークコアのネットワーク運用監視ツール「PATHMANAGER」と、革新的なAI (人工知能) エンジンにより、パスの最適化設計を高速に実行するAria Networks社のネットワーク設計ツール「iVNT」の発売を開始した。現在CTCは、両社の製品を組み合わ

せた統合的な「MPLS管理ソリューション」の開発を進めている。

この他、CO<sub>2</sub>や消費電力を劇的に削減してストレージ分野のグリーンIT化を実現する3PARとCOPAN Systemsの製品に注力するなど、ビジネスや市場ニーズの変化に迅速に対応できる先端技術製品およびソリューションの提供に取り組んでいる。さらに、今後、注力していく技術として、通信 (フロー) のパターンやパケットの特徴や振る舞い、パケット内の制御情報などをチェックして個々のアプリケーションを識別する「DPI (Deep Packet Inspection) 技術」、ラストワンマイルの接続手段として期待されている「WiMAX」、情報通信システムの効率的な運用管理を実現する「OSS (Operation Support Systems)」などをあげている。

#### お問い合わせ先

伊藤忠テクノソリューションズ(株)  
 テレコム企画開発部  
 TEL : 03-6203-5231  
 E-mail : telbizmarcom@ctc-g.co.jp  
 URL : <http://www.ctc-g.co.jp/>